

姫島小学校で、拍子水温泉の黄土色の泥と血の池地獄の赤い泥を使った泥染めを入り口として、姫島と別府を比べ、ふるさとの自然や歴史文化を確かなものにする実践学習を行いました。合わせて、実践学習の前後で意識調査も実施しました。

日時 2025年1月27日月曜日 対象児童 姫島小学校3年生と4年生25名

講師 「地域の色・自分の色」研究会代表 照山龍治 補助 研究会 塩月孝子

監修 林教育長、吉田校長 司会進行 吉武教頭 ※写真は学校の許可を取って掲載しています

(2) 実践学習の様子



(2)意識調査の結果

①実践と学習を経験した1名の子どもが自然豊かという理由で、ふるさを姫島村から大分県に変えた。

②「あなたにとって、「ふるさと(地域)」は、次のどれですか？」という質問に対して、実践と学習の前後で、ともに姫島村とした20名の中、1名が「生まれた所だから」を「すてきな村だから」に、また、2名が「住んでいる所だから」を「自然豊かだから」「ふるさとだから」に理由を変えた。

③「あなたにとって、ふるさと(地域)の色は？」という質問に対して、実践前は、主に「緑色」と答えた児童が多かったが、学習を経験して、「金色や赤、茶色、黄土色など」と答える児童もみられるようになった。「ふるさとの色」のイメージに「変化」が確認できた。